

小中一貫教育による児童・生徒の社会性の育成 —地域連携を基盤とした八千浦学園の取組を通して—

提言者：上越市教頭会 上越市立八千浦中学校 堀川正史

1 提言の要旨

八千浦小中学校では、小中一貫教育を推進し、八千浦学園として小中の円滑な接続や教育の質の向上を目指している。特に、学ぶ意欲の喚起と豊かな社会性を育むことを重視した教育活動を展開している。

(1) 八千浦学園の取組

小中の全職員が「学び部会」「生活改善部会」のどちらかに所属し、学園の目標達成に向けて、毎月全体会及び部会を開催している。事前に学園企画委員会を開催し、取組の進捗状況、反省、改善策等を地域の方々とともに検討している。

○教頭としての取組

- ・日程調整と運営及び協議題の検討、資料整備を行う。
- ・全体会及び部会の内容、運営について、学び部員、生活改善部員に指導する。

(2) 社会性育成に向けた取組

- ・「明るい町づくり協議会」と協賛するなど、地域の方々との交流の機会を設定する（海まつり・小中合同あいさつ運動・小中合同クリーン活動・小中合同学校保健委員会）。
- ・地域や保護者の方々からボランティアとして参加していただき、交流を深める場を設定する（小5・6と中1による絆登山）。

○教頭としての取組

- ・明るいまちづくり協議会等の事務局として各行事の実行委員会に加わり、行事の企画段階から参画するとともに、校内の参加態様について担当を指導し、円滑な行事運営を図る。
- ・小中合同の取組に関し、小中間及び各町内会、関係機関への参加協力要請や連絡調整を図る。

2 研究協議

(1) 全体協議から

支援者の直東学園から、「コミュニティ・スクール（CS）がキャリア教育を中心に支援してくださっており、これを小中一貫教育にどのように生かしていくか検討中である」と取組の紹介があった。

質疑では、「社会性育成の成果」「小中連携と小中一貫の違い」「9年間のカリキュラム作成上の留意点」「月ごとの小中共通の学習目標」について多くの意見が交わされた。

これから小中一貫教育を始めようとしている学校にとって、大いに参考になる質疑となった。

(2) グループ別協議から

次のような内容で協議が行われた。

- ・複数の小学校がある地域の取組。
- ・小中の授業交流の工夫。
- ・CSを基盤とした小中一貫教育。
- ・職員間の温度差を克服するための方法。
- ・小中一貫教育の効果。
- ・小中職員合同会議設定の工夫。

3 指導助言

妙高市立妙高高原中学校三井田芳郎校長先生から、小中一貫教育を進めるに当たっては、「各校において、児童・生徒・地域の本音の課題を洗い出すこと」「出された児童・生徒・地域のニーズや課題を小中間で伝え合い、職員が共有すること」が重要であるご指導いただいた。

また、八千浦学園の取組について、学園としてのベクトル合わせが組織的に行われているとのお話をいただいた。

ともに歩む“地域の学校づくり”を推進するための教頭の役割について —小中一貫教育を推進する中学校区の取組を核にして—

提言者：柏崎市刈羽郡小中学校教頭会 柏崎市立半田小学校 藤本 高雄

1 提言の要旨

柏崎市教育委員会は、将来を見据え、たくましく生き抜く子どもを育てるために、「ともに歩む“地域の学校づくり”」を推進している。それを受け、市内の小中学校では、「小中一貫教育・柏崎方式」を中核にしながら、「柏崎の教育3・3・3運動」「学校支援地域本部事業」等を活用し、家庭や地域の方々と教職員が一体となって、確かな子どもの成長を目指している。

このような「家庭・地域・学校が一体となった小中一貫教育」を進めていくには、中学校区の学校間、そして家庭・地域との連携を組織的に運営していくことが不可欠になるが、その組織的な運営に難しさがあると実感する。そこで、柏崎刈羽教頭会では、「これらを推進していく組織運営の要である教頭の役割が重要になる」という課題意識をもち、その円滑な推進を目指して、次の4つの視点から各中学校区で取り組んでいる。

- (1) 小中一貫教育（三校交流会）における組織・運営上の教頭の役割
- (2) 家庭・地域連携を推進する中学校区の取組における教頭の役割
- (3) 中学校区の取組における教頭の役割の整理
- (4) 学校内における組織・運営

2 研究協議

(1) 全体協議から

「家庭・地域・学校が一体となった小中一貫教育」を進めていくための中学校区の学校間、そして家庭・地域との連携について、多くの意見が交わされた。

中学校区での授業公開や合同研修会で多くの職員が参加できるよう、小学校では午前放課にして中学校の授業を参観したり、中学校

区間で、5校時の開始時刻を揃えるといった校時表の工夫が紹介された。また、学校のPTA、地域のコミュニティセンター、町内会、後援会との連携による実効性ある取組が報告された。

(2) グループ協議から

「学校間の情報交換を密にしていくことの大切さを感じた。特に、中学校区での取組・運営を一覧にした年間計画が大変参考になった」「中学校区でランドデザインを作成し、目指すところを共有化している」「コミュニティスクールにより学校理解が進み、地域の学校としての意識が高まりつつある」といった意見が交わされた。

3 指導助言

妙高市立新井南小学校長の鹿住寿和先生より、目指す児童像、重点目標の設定と共有について、「具体的な姿が評価を容易にする。小中学校の学校評価項目をできるだけ揃えたとよい。9年間の義務教育段階の中での指導者の一員であることの認識や当事者意識が重要である。」こと、また、年間計画立案については、「PTA会長や地域関係者も交えて、年間の学習、行事予定の確認と調整をするとよい。」こと等、小中一貫教育の進め方について、ご指導をいただいた。



中学校区連携による教職員の資質の向上

— 5 つ の 取 組 か ら —

提言者：糸魚川市教頭会 糸魚川市立西海小学校 増村 浩一

1 提言の趣旨

糸魚川中学校区（5小、1特、1中）で、共通取組プランとして『ひすいプロジェクト』を立案し、「社会性の育成」と「学力向上」を最重要課題として取り組んできた。

具体的には、まず、教頭7人で、中学校区の子どもの現状と課題の把握を行い、各部会において報告した。

次に、中学校区の目指す3つの子ども像を設定し、小中連携の視点から、子ども像をさらに3期に分けて、部会毎に9つの目指す子ども像を設定した。

そして、中学校区の全教職員を学級づくり、学力向上、特別支援教育、生徒指導、健康・食育の5つの部会に、部長である校長の指導の下、一人ひとりの資質能力、専門性を考慮して割り振った。

その後、7人は、5つの部会に副部長として入り、以下の取組に関与した。

(1) 中一ギャップ解消の取組

関与：各校の連絡調整

(2) Q-U研修会

関与：講師依頼、各校への案内

(3) 小中間授業交流

関与：研推への支援、各校への案内

(4) アウトメディアの取組

関与：各校に実施計画、取組カード
保護者啓発文書等の配付、集計

(5) 授業のユニバーサルデザイン化

関与：特別支援学校での研修会開催

並行して、教頭会の回数を増やし、各部の取組内容を吟味し、助言、指導を行った。

また、昨年度、中学校区の全部員が集まる研修会を設定することが困難であったが、今年度、まず学力向上部会が実施した。

プロジェクトを推進し、「教職員の資質能力を伸ばし、専門性を高めていく」には、7人の教頭がどのように関わり、連携していけばよいか知恵を絞ってきた。

2 研究協議

(1) 全体協議から

教職員と管理職間で問題意識を共有化するための長期休業中の研修会、いじめ・不登校対策のボトムアップ的小中連携事業、教科の系統性を重視した小中合同指導案検討会等、教頭が関与する資質の向上のための取組が紹介され、意見が交わされた。

中学校区のプロジェクトは、校長会、教頭会そして、教職員がベクトルを同じくすることが推進していくための鍵となる。

(2) グループ協議から

中学校区の取組は、組織が重要である。

部会での取組、成果と課題を他の部会にも知らせ、共通理解を図っていくことが教頭の関与の仕方の1つである。

各部会のトップは校長である。校長の提言、指導を受け、実際に部会を運営することも教頭の関与の1つである。

校内研修を焦点化させ、重点化した取組にさせたり、研修会に積極的に参加させたりするのも教頭の関与の1つである。

3 指導助言

(1) 教職員を動かす体制づくりのために

教職員はなかなか動いてはくれない。機会を捉えて取り組むことを伝え、必要なことを意図的・計画的・継続的に確認、指導しながら取組を推進させる。また、全員集会の開催も有効である。

① 分かりやすい説明

② 教職員参加型の推進体制と推進計画

③ 定期的な取組状況の確認と指導

(2) 校長を動かすために

世の中の状況や、他の部の様子について、情報を収集し、校長に意見具申する。

これらのために教頭同士が連携し、取組状況の情報交換を行いながら、次の一手を考え、取組を進める。